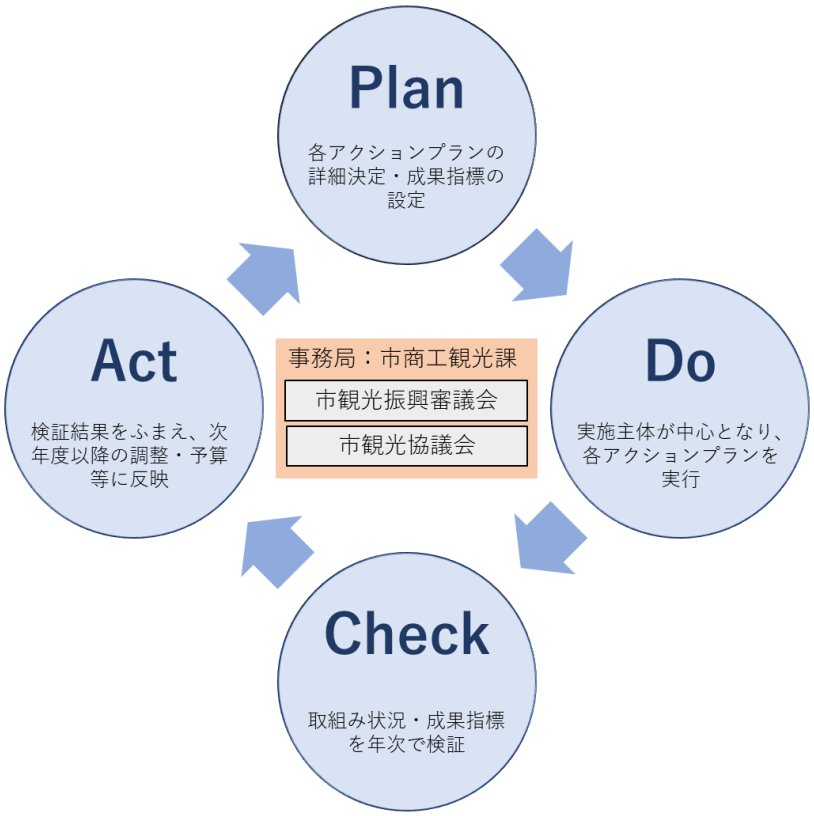
資料　1

１．第４期八幡平市観光振興計画の取組み状況と成果指標の検証について

１　計画の推進体制

令和４年８月に策定した第４期八幡平市観光振興計画の推進体制について、目標を達成するための PDCA サイクルに基づく計画、アクションプランの実行、評価と検証、改善を市観光振興審議会や市観光協議会と連携し、数値を年度ごとに確認することで、取組み内容の見直しや目標値の検討を行いながら本計画を推進する体制としております。



２　検証にあたって

第４期八幡平市観光振興計画では、重要目標達成指標（KGI）と重要業績評価指標（KPI）を設定しております。

KGI は本計画で実現を目指す本市の観光の姿を表す指標として①～⑥まで設定されており、実績値をもとに分析、検証を行います。

①旅行支出額　　②旅行者数（観光入込客数等）　　③リピーター率・再訪意向
④来訪者満足度　　⑤観光資源に対する認知率（市民）　　⑥観光への関与意向（市民）

KPI のアクションプランごとの評価と検証については、具体的な事業の進捗状況や新たな課題の整理などを行うため、令和６年度の取組みを振り返りながら、アクションプランごとに検証票を作成し、取組み状況と成果指標の検証を行います。

3　重要目標達成指標（KGI）の検証

（1）旅行支出額について

①目標値

項目	令和元年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
日本人観光消費額	－	39億円	98億円	100億円	105億円	105億円	106億円
消費額（1人当たり）	－	25,560円	26,000円	26,500円	27,000円	27,500円	28,000円
訪日外国人観光消費額	53億円	－	8億円	30億円	56億円	78億円	97億円
消費額（1人当たり）	41,027円	－	42,000円	42,500円	43,000円	43,500円	44,000円

②実績値

項目	令和４年度	令和５年度	令和６年度
日本人観光消費額	80.1億円	98億円	124億円
消費額（1人当たり）	22,118円	32,896円	45,744円
訪日外国人観光消費額	4.6億円	29億円	58億円
消費額（1人当たり）	36,286円	50,123円	71,399円

③分析・検証

・令和６年度の１人当たりの日本人観光消費額は、令和５年度と比較すると 12,848 円増加した。平均宿泊日数自体は微増にとどまっているが、４泊以上の宿泊者の割合が増加していることや、首都圏および遠方地からの宿泊客の割合が増加していることが要因と考えられる。また、全国的に宿泊単価が上昇しているなか、各宿泊施設においても宿泊単価の向上が図られていることが、全体的な消費額の増加に寄与していると分析される。

・令和６年度の１人当たりの訪日外国人観光消費額は、令和５年度と比較して 21,276 円増加した。シンガポールからの訪問者数は前年度 815 人から 2,884 人へと 254%の大幅増となったほか、フランス、イギリス、カナダなども 150%以上の増加となった。さらに、アメリカや豪州も 100%を超える増加率となっていることから、消費額が高い傾向にある国からの旅行者の増加が影響していると考えられる。

（２）旅行者数（観光入込客数等）について

①目標値

項目	令和元年度（基準値）	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
観光入込客数	1,879千人回	1,700千人回	1,850千人回	2,000千人回	2,200千人回	2,400千人回
延べ宿泊客数	514千人回	400千人回	450千人回	520千人回	560千人回	600千人回
外国人観光客入込数	129,476人回	20,000人回	70,000人回	130,000人回	180,000人回	220,000人回
教育旅行者数	24,529人回	15,000人回	18,000人回	22,000人回	26,000人回	28,000人回
スポーツ関係宿泊数	16,374人	16,000人	17,000人	18,000人	20,000人	22,000人

②実績値

（単位：人回）

項目	令和４年度	令和５年度	令和６年度
観光入込客数	1,511,778	1,535,370	1,556,531
延べ宿泊客数	375,448	365,716	352,500
外国人観光客入込数	12,663	58,951	81,744
教育旅行者数	21,641	12,454	5,730
スポーツ関係宿泊数	20,302	14,502	10,233

③分析・検証

・令和６年度の観光入込客数は、令和５年度と比較して 21,161 人増加した。特に５月から７月の３カ月間は一時的な落ち込みが見られたものの、10 月から 12 月の３カ月は増加傾向に転じた。なお、岩手山の入山規制等のマイナス要因の影響は顕著には見られなかった。

・令和６年度の延べ宿泊客数は、前年度と比較して 13,216 人の減少となった。特に５月から７月の期間では、前年比で 16%の減少となったが、11 月は前年比 41%の増加となった。また、外国人の宿泊数が増加する一方で、日本人の宿泊数が前年比 36,009 人の減少となっており、国内旅行者の誘客強化が喫緊の課題となっている。

・外国人観光客入込数は台湾（38,391 人、前年比 18%増）、香港（10,323 人、98%増）、中国（9,250 人、29%増）、韓国（5,214 人、17%増）、オーストラリア（6,105 人、102%増）、アメリカ（3,165 人、111%増）、シンガポール（2,884 人、254%増）、タイ（1,879 人、31%減）、イギリス（758 人、149%増）、カナダ（322 人、150%増）となり、台湾、

香港、中国の割合が高いものの、欧米豪、シンガポールなど高い伸びを示しており、一方で台湾の伸びは鈍化し、タイは減少している。

（３）リピーター率・再訪意向について

①目標値

項目		令和元年度（基準値）	令和３年12月～４年６月	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
リピーター率	日本人	－	83%	82%	81%	80%	80%
	外国人	55%	－	55%	57%	58%	60%
再訪意向（７点満点※）	日本人	－	6.54	6.55	6.56	6.58	6.6
	外国人	5.82	－	5.9	6.1	6.3	6.6

※７点＝強く再訪したいと思う、６点=再訪したいと思う、５点＝やや再訪したいと思う、４点＝どちらでもない、３点＝やや再訪したくない、２点＝再訪したくない、１点＝強く再訪したいと思わない

②実績値

項目		令和４年度	令和５年度	令和６年度
リピーター率	日本人	78.2%	66.3%	68.4%
	外国人	36.0%	25.0%	18.2%
再訪意向（7点満点※）	日本人	6.37点	6.25点	6.04点
	外国人	5.94点	6.14点	6.14点

③分析・検証

・令和６年度の日本人リピーター率は、令和５年実績値と比べて2.1%増加した。
延べ宿泊客数が減少している中で単価は大きく上がっており、首都圏等からの観光客が増えているとみられるが、リピーター率が増加している要因は、新規よりも、かつて安比や八幡平に来たことのある人の掘り起こしができたと考えられる。一方で、一度も八幡平や安比に来たことがない人をどう増やしていくかが課題になる。

・令和６年度の外国人リピーター率は、令和５年度実績と比べて6.8%減少した。国籍の多様化に伴い、初めて訪れる外国人の増加による相対的な結果と考えられる。特にシンガポールや欧米豪など、コロナ禍以前には来訪が少なかった国・地域からの来訪者が増加している。

（４）来訪者満足度について

①目標値

項目		令和元年度（基準値）	令和３年12月～４年６月	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
総合満足度（7点満点※）	日本人	－	6.24	6.25	6.26	6.28	6.3
	外国人	6.1	－	6.15	6.2	6.4	6.6

※７点＝とても満足、６点＝満足、５点＝やや満足、４点＝どちらでもない、３点＝やや不満、２点＝不満、１点＝とても不満

②実績値

項目		令和４年度	令和５年度	令和６年度
総合満足度（7点満点※）	日本人	6.11	6.13	6.04
	全国平均	－	6.02	6.08
	外国人	5.88	6.05	6.14
	全国平均	－	6.63	6.7

③分析・検証

・令和６年度の日本人の総合満足度は令和５年度と比較して、0.09 点低下しており、全国平均も下回っている。満足度は自然・景観・観光名所、温泉、宿泊施設が満足度を上げる要因となり、情報発信、交通・アクセス、通信環境、買い物環境、コストパフォーマンスなどが満足度を下げる要因となっている。

・外国人は、昨年度から 0.09 点上昇しているものの、全国平均を下回っている状況となっている。

（５）観光資源に対する認知率（市民）及び観光への関与意向（市民）について

①目標・実績値

項目	令和５年度（目標）	令和６年度（実績値）
観光資源認知度	87.7%	99.3%
観光客増加に対する前向きさ（7点満点）	6.45点	6.11点
観光客へのおもてなし意向がある市民の割合	90.6%	86.9%

②分析・検証

・ほぼすべての市民が観光資源の認知度があり、多くの市民が観光客の増加を前向きに捉えていることがアンケート調査により結果が表れている。

観光資源としては火山や温泉に加え、地熱を挙げる回答も多く、地熱が市民にとって重要な八幡平の観光資源として認識されていることがわかった。また、ウィンタースポーツやトレッキングも身近なアクティビティと認識されている。